

「岩手型住宅ガイドライン」の改訂について

建築住宅課

岩手県では、「さらなる省エネ性能」を持ち、県産木材の活用などの「岩手らしさ」を推奨する「岩手型住宅ガイドライン」を令和6年3月に改訂しました。

1 改訂の概要

岩手県では、「岩手県住宅マスタープラン」における重要な施策として、岩手型住宅の普及促進を図っています。

このたび、平成20年のガイドライン策定以降のカーボンニュートラルに係る国等の動向や、健康寿命等の新しい知見を踏まえ、住宅の省エネ性能に「ZEH+」の水準を加えるとともに、住宅の気密性能や省エネ住宅の健康面等での効果の内容を盛り込みました。

2 対象 新築及びリフォームする一戸建て住宅

3 さらなる省エネ性能

(1) 望ましい省エネ性能

冬の寒さの厳しい岩手において、室内の暖かさを維持し、快適で健康的な生活を送るためには、より高い省エネ性能とすることが重要であり、これから求められる「さらなる省エネ性能」として、「断熱等性能等級6」をクリアする省エネ性能を設定します。

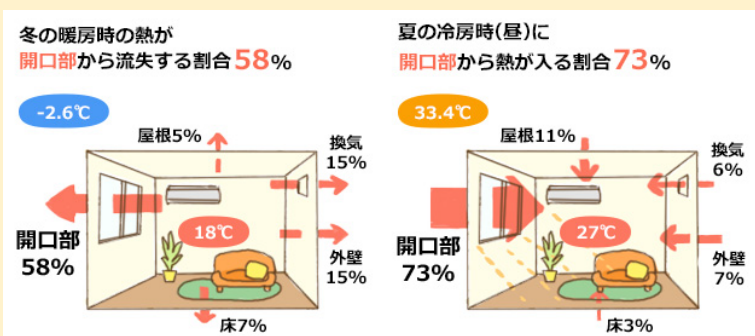
断熱等性能等級6、7（ZEH+の水準） 相当隙間面積C値1.0cm²/m²以下

(参考) 住宅の断熱のポイント

冬に快適な住宅を作るには、住宅全体を「高性能な断熱工法で包み」、室内から熱を逃がさないこと、また室内の表面温度を下げないことがポイントになります。

○ 開口部の「断熱」

住宅の断熱で重要なのが、開口部の断熱性能を高めることです。なかでも窓は、熱の出入りが大きいので、断熱上の重要なポイントとなります。



出典：一般社団法人日本建材・住宅設備産業協会ホームページ「Q&Aよくあるご質問 住宅用窓について」（平成11年省エネ基準レベルの断熱性能の住宅での試算例）https://www.kensankyo.org/syoene/qanda/mado/a_9.html

○ 住宅の「日射熱取得」

断熱性能の高い住宅では、冬の室温低下を抑えることができます。そこで、冬は、開口部の配置・仕様などを適切に計画することにより、上手に日射熱を取得することが重要です。

(2) 期待される効果

ア 健康面

- ① **冬の寒さ対策** 断熱性能が低く、住宅内に温度差がある家の場合、冬にヒートショックが発生するリスクがあり、このリスクを低減します。
- ② **体感温度の改善** 断熱性能が低いと室内表面温度が低くなります。室内の表面温度が高いと、室温が同じでも、体感温度としては暖かく感じます。
- ③ **結露の抑制効果** 断熱性を高めることで、冬季における結露の発生を抑制することができます。
- ④ **カビの抑制効果** 断熱性を高めることで、カビの生える壁表面の温度も上がり、結果的に湿度が下がり、カビが生えにくくなります。
- ⑤ **疾病有病率の改善** 過去に実施されたアンケート調査によって、住宅の断熱・気密性能を向上させることにより、疾病有病率が改善されるという結果が出ています。
- ⑥ **夏の暑さ対策** 断熱性能が高い住宅では、日射を適切に遮ることで、外の熱が家の中に入りやすく、室温上昇を抑えることができます。

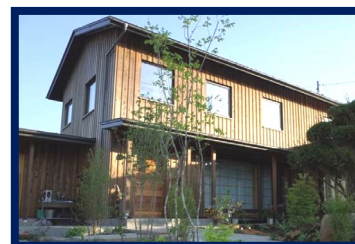
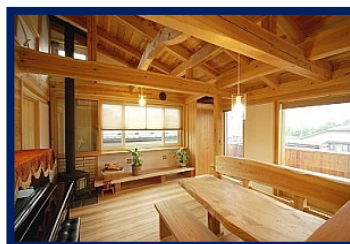
イ 光熱費等の削減効果

省エネ性能を高めると、冬季における暖房負荷を削減することができ、光熱費の削減につながります。

4 岩手らしさ

(1) 県産木材の活用

岩手の豊かで多様な森林資源を利用し、県内で割合の大きい木造住宅において、県産木材の活用を促進します。



(2) 地域性への配慮

空き家の有効活用や景観との調和など、地域の伝統を活かした住宅の普及を促進します。



(景観と調和した住宅)



(住み継がれる住宅)



(各地域独自の住宅)

「岩手型住宅ガイドライン 令和6年3月改訂」の全文は岩手県ホームページをご覧ください。



<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyuu/kenchiku/kojin/iwategata/1010274.html>